

北海道 ITS 推進フォーラム 会報



NO. 13

CONTENTS

- P1～2 【活動報告】平成 17 年度寒地 ITS ワークショップ
開催報告
P3～4 【活動報告】平成 17 年度講演会 開催報告
P4 【お知らせ】

活動報告

■平成 17 年度 寒地 ITS ワークショップ 開催報告

さる平成 17 年 8 月 30 日（火）に、独立行政法人 北海道開発土木研究所との共催で、平成 17 年度寒地 ITS ワークショップを札幌コンベンションセンターにて開催しました。このワークショップでは、「セカンドステージに向けた地域の ITS」をテーマに、積雪寒冷地の視点から見た地域の ITS について幅広い議論を行いました。

～寒地 ITS ワークショッププログラム～

【基調講演】「北海道 ITS の方向性」

田村 亨 様
（室蘭工業大学建設システム工学科教授）

【話題提供】「"NPO が挑戦する地域 ITS コミュニティビジネスに育てられるか" 青森 ITS クラブの取り組み」

葛西 章史 様
（青森 ITS クラブ事務局長）

【第 1 セッション】「行政・研究機関からの発表」

座長：加治屋 安彦 様
（（独）北海道開発土木研究所道路部防災雪氷研究室長）

- ・「公共交通情報提供実験について」
城 賢次 様
（北海道運輸局交通環境部消費者行政課専門官）
- ・「外国人観光客を対象としたレンタカー・プローブ調査（中間報告）」
田村 桂一 様
（北海道開発局建設部道路計画課開発専門官）
- ・「知床世界遺産登録に伴う情報発信について」
縄田 健志 様
（北海道建設部道路計画課道路計画グループ主査）
- ・「冬期道路の高度情報提供システムのフィールド実験」
松沢 勝 様
（北海道開発土木研究所道路部防災雪氷研究室副室長）

【第 2 セッション】「民間企業からの発表」

座長：丹治 和博 様
（（財）日本気象協会北海道支社道路気象グループ）

- ・「交通事故の瞬間を捉える技術とその応用」
正岡 久明 様
（（株）シー・イー・サービス企画開発部長）

- ・「寒地道路における走行環境情報の収集・活用に関する一考察」

田村 寿仁 様
（富士通（株）ITS 事業本部プロジェクト課長）

- ・「携帯電話への新しい配信型サービスと気象情報」

岡村 智明 様
（（財）日本気象協会北海道支社技術部情報開発課）

- ※ 第 2 セッションの発表は、当フォーラムにて募集したものです。



（上写真）基調講演 田村教授のご講演の模様



（上写真）話題提供 葛西様のご講演の模様

以下に、ワークショップ発表の概要についてご紹介いたします。

基調講演では、「みちを使いこなす ITS」として、ITS 開発がシーズ指向から公益指向へ転換が進む中で社会基盤の視点から見た ITS 開発の重点事項とはなにか、「北海道において求められる ITS 機能」として、人口密度の低い北海道に求められる交流人口の増加を支援する ITS、持続的発展を支える ITS、救急救命医療を支える ITS をあげられ、「使える道路」へと育てるために必要な道路機能・道路構造・運用についてご講演いただきました。

話題提供では、全国初の ITS 関連 NPO 法人である青森 ITS クラブの設立経緯や、交通情報と商店街情報を組み合わせた「わがまちかど情報青森」の提供など地域に密着した情報発信と継続的な事業運営の取組状況について、また中立的な立場である NPO のメリットと課題等についてご講演いただきました。

続く第 1 セッションでは「行政・研究機関からの発表」と題し、行政・研究サイドからの ITS 利用・研究事例についてご紹介いただきました。

まず、北海道運輸局の城様から、平成 17 年 2 月に実施した道内 6 都市間の都市間バス及び JR の運行情報を提供する「公共交通情報提供実験」の運用評価や利用者アンケート結果をご報告いただくとともに、更なる利便性の向上を目指した情報提供のあり方についてご講演いただきました。

続いて、北海道開発局の田村様から、シンガポールから来道したレンタカーによる「ドライブ観光」観光客の周遊状況やアンケート結果から、外国人観光客の情報入手経路やドライブ走行支援として要望の高い情報及び海外からの来訪者に対する ITS 分野の展開可能性についてご講演いただきました。

次に、北海道建設部の縄田様から、世界自然遺産たる知床の自然・生態系の特徴と、「良好な自然景観」と「多様な生態系」を適性に保全しつつ利用適正化を目指す取り組み状況、道路標識の多言語化やアクセスルートの整備、道路情報提供装置の充実に向けた取り組みについてご講演いただきました。

第 1 セッションの最後として、北海道開発土木研究所の松沢様から、吹雪による視程障害が冬期道路の運転に与える影響と、情報提供により事前に吹雪を回避する「広域情報提供サービス」及び吹雪に巻き込まれたときの多重衝突事故発生を防止する「路側情報提供サービス」の実験概要とアンケートやヒヤリングによる評価結果について、ご講演いただきました。

休憩時間に、米国連邦道路庁 FHWA の DVD "Road Risk" (米国連邦道路庁 FHWA の Road Weather Management Program で、気象が道路交通にどれだけインパクトを与えているかを容易に解説したもの) を上映しました。

休憩後の第 2 セッションでは「民間企業からの発表」と題し、当フォーラムを通じて募集した会員企業の方より技術面の紹介をいただきました。



(上写真) ワークショップの様相

まず、(株)シー・イー・サービスの正岡様から、交通事故の衝突音やブレーキ音を識別して、その瞬間の前後の画像データを自動的に保存する交通事故自動記録装置 TAAMS の概要と、事故画像を活用した事故対策や注意喚起、緊急車両出動等の応用への提案についてご講演いただきました。

次に、富士通(株)の田村様から、交通量計測機能及び視程障害時の多重衝突事故誘発要因の検知機能を有するミリ波センサ実験システムについて、ループ式トラカンの比較評価による交通量計測結果や、路面状況や気象状況により極端な低速走行車が発生するなどの事故誘発要因の検証結果についてご講演いただきました。

最後に、(財)日本気象協会北海道支社の岡村様から、携帯電話利用者に画像・写真・地図等のわかりやすいビジュアルな情報をメールのように自動配信する新しいコンテンツ配信型サービスにより、視覚に訴える効果的な緊急気象情報や道路情報の配信や、観光情報や寒冷地の路面情報提供における新たな情報提供サービスの可能性についてご講演いただきました。

ワークショップへは事務局の予想を上回る約 140 名の参加があり、各発表に対して活発な議論が行われ、ITS への関心の高さが伺えました。

(以上、報告：事務局 藤井)

寒地 ITS ワークショップの開催結果

http://www2.ceri.go.jp/mt_test/archives/000213.html

■北海道 ITS 推進フォーラム講演会開催報告

さる平成 17 年 12 月 1 日（木）に、平成 17 年度第 2 回目の北海道 ITS 推進フォーラム講演会を、社団法人 日本土木学会実践的 ITS 研究特別委員会北海道ワーキングとの共催により、札幌市外では初めてとなる稚内市の稚内全日空ホテルにおきまして、開催いたしました。

当日は、地元の道路管理者をはじめ全道から、事務局の予想を上回る 141 名の方にご参加をいただきました。

～北海道 ITS 推進フォーラム講演会 プログラム～

【講演 1】「道を使いこなす ITS へ “ニーズ指向から公益指向への転換” 地域課題解決に求められている ITS 整備とは・・・」

清水 哲夫 様

（東京大学大学院工学研究科社会基盤学専攻助教授）

【講演 2】「北海道の道路を支える寒地 ITS の技術開発と導入事例」

加治屋 安彦 様

（独）北海道開発土木研究所防災雪氷研究室長）

【パネルディスカッション】

「ITS で変わる・暮らし・未来」 ～地域課題の解決と ITS
ITS・IT サービスとして地域からの期待・未来について

コーディネータ

高橋 清 様

（北見工業大学工学部土木開発工学科助教授）

パネリスト

加治屋 安彦 様

（独）北海道開発土木研究所防災雪氷研究室長）

杉川 毅 様

（未来のくらしと宗谷路を考える会副会長）

高谷 邦彦 様

（NPO 法人映像コミュニティムーブユー理事長）

清水 哲夫 様

（東京大学大学院工学研究科社会基盤学専攻助教授）

以下に、講演会での発表の概要についてご紹介いたします。

講演 1 では、交通システム計画における ITS の意義について、今後、道路を”作る”から”使いこなす”に移行する時代においては道路管理システムの効率化が必須であり、ニーズ指向な交通サービスの持続的な改善を図るために ITS は重要な役割を果たすであろうこと、また、ITS ニーズを地域から発信していくことが重要であり、地域へのブレークダウンや中央へのフィードバックを円滑にするために、中央から地方への権限委譲が図られるべきであること等について、ご講演いただきました。

講演 2 では、北海道観光を支える道路情報提供事例としてホームページ「北の道ナビ」の距離と時間検索機能やライブ画像の充実及び多言語対応について、「しりべし e 街道」における官民連携による冬期道路の情報収集・提供の試みについて、シーニックバイウェイに関する取り組み等について、お話いただきました。また、冬期のモビリティを支える ITS と

して「冬の峠案内」を、さらに冬期道路の安全走行支援システムに ITS 技術が活用される事例として「吹雪の広域情報提供実験」や「路測情報提供サービス」について、ご講演いただきました。



（上写真）講演 1 清水助教授ご講演の様様



（上写真）講演 2 加治屋室長ご講演の様様

休憩をはさんで行われたパネルディスカッションでは、まず北海道 ITS 推進フォーラムが実施したアンケート結果を切り口として各種情報提供に関する議論を行い、地域からの情報発信の重要性と、官民が連携して行っている事例について議論されましたが、地域からの情報発信にはブロードバンド過疎地域に対する情報インフラの整備が必要であることが提

示されました。続いて、宗谷地域の冬期視程障害対策をメインに議論を行い、会場では視程障害のビデオを上映し、パネラーの方からは吹雪による視程障害の恐ろしさや情報提供において文字だけでなく映像が大切であること、ドライバーからの情報入手が必要であること、通信技術として次世代 VICS や DSRC の活用が望まれることなどが議論されました。最後にコーディネータにより、冬期視程障害対策の必要性和情報提供に向けた官民連携の取り組みの重要性、そして地域に必要とされるローカル ITS の議論が今後も必要であると議論をまとめられ、パネルディスカッションを終了しました

(以上、報告：事務局 藤井)



(上写真) パネルディスカッションの様
左から高橋助教授、杉川副会長、高谷理事長、加治屋室長、清水助教授



(上写真) 講演会 会場内の模様

事務局よりお知らせ

- 会報 No.13 の発行が大幅に遅れましたこと、誠に申し訳ございませんでした。本号では、寒地 ITS ワークショップの話題に加えて、札幌以外では初の開催となりました講演会の模様も報告いたします。
- フォーラムでは、各種連絡・お知らせ、特別会員の国・地方自治体の方からの事業や公募のご案内等をホームページや電子メールでお伝えしております。電子メールアドレスをお持ちの方で、まだ登録がお済みで無い方は、この機会にぜひメールアドレスをお知らせください。info@hokkaido-its.jp または 011-232-0048(FAX)で受付しております。ご連絡の際は、会員名と電子メールアドレスを忘れずをお願いいたします。
- 連絡先が変更になった場合は変更申込書(ホームページからダウンロードできます)をご利用の上、郵送または FAX で事務局まで送付願います。
- 会報第 14 号は平成 18 年 7 月発行予定です。

編集・発行／北海道 ITS 推進フォーラム(Hokkaido ITS Forum)

<http://www.hokkaido-its.jp/>

事務局／〒060-0001

札幌市中央区北 1 条西 3 丁目 MNビル 10 階

札幌総合情報センター(株)内

●TEL 011(232)4848 ●FAX 011(232)0048

●E-mail info@hokkaido-its.jp

事務局長：蓮井 七男、事務局員：藤井 雅晴、安藤 浩司